

仲多度・善通寺支部 活動報告

研究主題

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成
ー 主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進 ー

1 はじめに

現代は、「第四次産業革命」とも言われ、IoT 及びビッグデータの活用、AI に代表される人工知能やロボットの発達による市場の広がりが期待されている。新たな職種が生まれている一方で、同時に消失していく職種も増えている。つまり、今まで人類が経験したことのない急速な産業構造の変革期ともいえる。

こうした急速な社会の変革期に、中学生は今後社会で働いていかなければならない。そのために、文部科学省は、2021 年の学習指導要領全面実施前に、小学校では、2020 年に学習指導要領が全面実施され、学校においてプログラミング教育を必修化するなど、情報活用能力を言語能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けるとともに、学校においては ICT 環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが明記されており、今後の学習活動においては、積極的な ICT 教育が必須となっている。

2 まんのう町立満濃中学校の取組

(1) 今年度の取組

①ZOOM を取り入れた生徒会活動

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全校集会が実施できない状況の中、生徒会選挙の演説で ZOOM を利用した。各学年団ごとに教室、ランチルームに分かれて体育館での演説を ZOOM を利用しスクリーン、TVを通して視聴した。

②コラボノートを利用した授業

国語科と技術・家庭科の授業では、対面での対話を避けるために、コラボノートを活用し、生徒が考えた意見を、画面を通して交換する授業を行った。

③d マークコンテンツと GeoGebra の活用

数学科の授業では、iPad のアプリを利用した授業を行った。



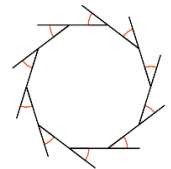
(2) 次年度に向けて

①ネット環境の改善

現在 1 クラスで同時に利用できるタブレットの台数は 8 台程度である。そのため、パソコン室以外での活用が難しい状況にある。

②ICT 教育のための教師の指導力の向上

来年度から、生徒一人にタブレットを 1 台貸し出す GIGA スクール構想に向けての準備が進んでいる。そのため、教員の ICT 教育の知識・技能の向上が必要である。積極的に ICT 機器を取り入れて授業を行う教員もいれば、利用しない教員もいるため、その差を縮める必要がある。



スライドで見る 1 点に集める 任意の点を選択する 図形を変更する

3 琴平町立琴平中学校の取組

(1) 今年度の取組

今年度は、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年ではあったが、教育の現場に新たな試みを図る年でもあったように思う。例えば ZOOM 等の通信アプリを用いたコミュニケーションなどがそうである。これらは苦肉の策から出てきたものかもしれないが、全校集会や生徒総会において全校生徒が一堂に会することが難しい感染警戒時においても、それぞれが安全に隔離された状況からつながり、学び合うことができた。また、感染予防の観点から帰ることができない遠く離れた保護者と繋がり、三者懇談をすることもできた。そういった新たな可能性を実践できた年であった。

(2) 次年度に向けて

今年度の ZOOM 等の通信アプリを用いた新しい試みをきっかけに、これからの学習においても、安全に離れた場所から学び合い等のコミュニケーションを図ったり、遠く離れた他校の生徒とのコミュニケーションに発展させたりしていくことが可能である。また、遠く離れた学校現場以外の社会人をゲストに迎え、学校現場ではできないような学習をすることも可能である。

これからの課題は、そういった学習がいつでもできるように、通信環境の安定などのハード面や、ソフト面の整備、また、それらを使いこなし、活用することができる教員と生徒たちのスキルの向上をしていくことが考えられる。

4 善通寺市立東中学校の取組

(1) 今年度の取組

①Web 会議サービス「ZOOM」を使用した遠隔授業の実施

新型コロナの影響における新しい生活様式に合わせて、十分な距離をとりつつ授業を行うために実施した。1 教室に 10 人程度の生徒が入室し、授業者は別室から ZOOM を利用している。

②電子黒板、電子教科書を利用した授業

ZOOM と併用した。ZOOM での授業はその特性上、どうしても受け身になり、また、授業者にとっても個別に対応を行うことが難しいため、視覚的にわかりやすいよう電子教科書で図や写真を提示しながら、その上へ書き込む形で授業を行った。生徒は概ね好意的に受け止めていた。また、電子黒板のペンソフトには、スライド作成機能が付いており、それを活用する教科もあった。電子黒板用のペンソフトの方が電子教科書のペン機能より感度がよく、またスクリーンショットなどの機能も豊富なため、電子教科書とペンソフトを併用するケースも見られた。

(2) 次年度に向けて

①タブレットに ZOOM アプリの導入

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受けて、臨時休校が続いたため、学校再開後は補習や夏休みの短縮など授業の補填が課題となった。そのため、今後の対策として、臨時休校時、在宅で授業が受けられるようタブレットの貸し出しができないかを検討している。

②電子黒板と電子教科書の利用

現在、教室での授業が再開されている。遠隔授業中に利用した電子教科書、電子黒板は今後も継続していく。

5 善通寺市立西中学校の取組

(1) 今年度の取組

①生活の中で

全校生が集まる集会等はできないため、始業式や終業式は事前に録画した動画を各クラスの電子黒板で見る方法をとった。明日の予定については、各学年の主任が職員室の自分の PC からドロップボックスに保存し、生徒は帰りの会に自分の教室の電子黒板で見ることができるように変更した。

②授業の中で

電子黒板と電子教科書があることで、電子黒板に直接書き込むことができるため、効率的な授業を行うことができるようになった。また、数学の授業では AI 型教材の **Qubena** を利用して個々のレベルにあった問題を解くなど、必要な問題を生徒に配布して活用することができている。なお、**Qubena** は朝の学活や帰りの会などにも曜日を決めて 3 学年全員が取り組めるように工夫している。

③授業や部活（運動関係）

友達の演技や部活での動きを撮影することで、フォームの確認をし、自分の動きを修正するのに利用している。

(2) 次年度に向けて

本年 12 月に生徒 1 人 1 台のタブレットが入り、**Qubena** やいくつかの教科でこれを利用している。次年度はそれをさらに発展させ、1 日 1 時間は 1 人 1 台での利用を促したい。

また、今年の夏に学校独自のドメインをもつことができており、**Google for Education** を導入することができた。次年度は生徒 1 人に 1 つのメールアドレスを付与し、授業の記録や作品等も **GoogleDrive** に保存してポートフォリオを作ることができるようにしたい。

6 多度津町立多度津中学校の取組

(1) 今年度の取組

①メディア機器の活用について

- ・ 校内研修 ロイロノートの使い方について。
- ・ **Google form** の使い方について。
- ・ 動画配信 **YouTube** で限定公開をし、生徒に視聴してもらい自宅学習に役立てた。

また、理科授業の動画・英語の動画で予習・数学文字式の加法減法を配信した。

②休校明け

- ・ 授業でロイロノートを活用し、パワーポイントを活用して資料の提示。
- ・ カメラを利用して生徒の意見の共有。
- ・ タブレットの機能を利用して、観察やまとめ。

(2) 次年度に向けて

校内にタブレット端末やネットワーク環境が整備される。これに伴い、各教科や特別活動における活用の場面を増やしていく。さらに、ICT 機器やメディア機器の管理運用についても検討していく。

